



先端技術活用し 近未来のまちを

青森市と慶大

連携協力へ覚書調印

青森市と慶応義塾大学「コ・モビリティ研究会」は十四日、青森市のホテル青森で、最先端の情報通信技術などを活用した近未来のまちづくりを目指し、連携協力のための覚書を交わした。

「コ・モビリティ研究会」は二〇〇七年に発足し、大学院理工学研究科や政策・メディア研究科を中心に協働企業（ユニケーション（情報伝達）、「共同」などを表す「コ」と、移動（モビリティ）を含む）を合わせた造語で、すべての人が自由に安全に移動でき、交流しやすい社会のこと。同センター

覚書は同大の研究と市が提唱する「コンパクトシティ形成」を相互に推進する目的で、佐々木誠造市長と川嶋弘尚センター長が調印後、握手を交わした。会場では一例として自動運転の移動体に乗った通院場面などを映像で紹介した。今後、市中心市街地活性化協議会と慶応大が共同で発足させた「青森まちなかマーケティング市民委員会」の調査などを通じて、具体的な取り組みを検討するとい

う。

川嶋センター長は十年後をめどに「何らかの実現性がある道筋を立てたい」と述べた。

同センターは青森市

覚書に署名する川嶋センター長と佐々木市長

この記事は、東奥日報社の許諾を得て掲載しております。無断転用・複写を禁じます。

東奥日報

2009.2.15

のほか、宮城県栗原市として研究を進めているなど三自治体とも連携する。